

国際広報メディア専攻

平成 26 年度
前 期

日本語論述

13 : 30～15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて 2 枚ある。
- 3 解答用紙 (25 字×40 行=1000 字) は、2 枚ある。
- 4 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題1～4のうちから1題を選択し、1600～2000字の日本語
(横書き)で解答しなさい。

【問題1】

アメリカ CIA の元職員が、アメリカ国家安全保障局(NSA)が安全保障対策として、個人のメール・通信記録の情報を収集していたと暴露した。国家がテロ対策として安全保障上、利点だと考えている点と、個人の人権侵害になりかねない否定的面の両面を比較しながら論じなさい。

【問題2】

近年、日本でも公職選挙におけるインターネットを用いた選挙運動が認められるようになったが、アメリカや韓国ではインターネットの選挙利用が以前から活発だった。インターネットを利用した選挙について、どのような意義と課題があるか、市民の政治参加という視点から論じなさい。

【問題3】

紙の書籍は将来消滅するかどうかについて、あなたの考えを述べなさい。

【問題4】

外国語教育を一斉授業で行う場合、その授業が必ずしもすべての学習者に適合しないことがある。適合しない要因を3つ挙げ、何が適合しないのか、また、どう対処すればよいかについて、それぞれ具体的に論じなさい。実施上の留意点に言及すること。